平成２６年度（2014 年度）紀要１０９号

Ⅲ

幼小中一貫カリキュラム研究グループ

幼小中一貫カリキュラム研究グループ

＜研究員＞

英語科チーム

荒木 大輔（千里みらい夢学園 桃山小） 出野 友美（千新小） 神崎 由紀（南千中） 藤田　幸（千里みらい夢学園 竹見中）

音楽科チーム

今村 美加（片山小） 中島 美穂（千新小）

大澤 美千代（第二中） 栗原 綾子（第五中） 榊　貴恵（高野中）

食育チーム（家庭科）

上野 弘美（山三小） 酒井 美智子（佐井小）

今木 理恵子（豊西中） 薗牟田 優里（第二中） 神原 憲子（山東中）

キャリア教育チーム

坂本 ゆか（佐竹小） 坂下　剛 （吹三小） 大賀 晃代（第五中）

国語科チーム

浜崎 由貴（北山小） 星野 克行（青山小） 佐藤　忍（佐井中） 平岡 弘子（千里みらい夢学園 竹見中）

算数・数学科チーム

粟野 志保（山二小） 石井 敬介（千一小） 小林 重信（豊西中） 濱田 淳司（第三中）

社会科チーム

荒木 大輔（千里みらい夢学園 千たけ小） 髙田　肇 （山三小） 萩森 須賀（片山中） 彦根 幸恵（第二中）

図工・美術科チーム

岡田　敦 （千里みらい夢学園 千たけ小） 齊藤　禎（山一小） 井口 知香（高野中） 平岡 寛子（第二中）

体育科チーム

高橋　誠（千里みらい夢学園 桃山小） 平田　葵 （豊二小） 田渕 真司（山田中） 船橋　壮（第二中）

道徳教育チーム

井上 治恵（山三小） 生地 真由美（佐井小）明原 由美子（南千中） 野本 玲子（青山中）

理科チーム

鬼頭 孝雄（豊一小） 小栗栖　隆（千里丘中） 園田　章（佐井中）

１．はじめに

本市においては子どもたちの「学び」と「育ち」を支えるために、就学前教育と小学校6年間・中学校3年間を連続したものととらえ、就学前と義務教育９年間で学びを支える効果的な指導を行うことを目標に、平成１２年から小中一貫教育に取組んできました。

本市における幼小中一貫教育では当初より「施設一体型」ではなく「施設分離型」の幼小中一貫教育を目指し、その中心になる「就学前教育と義務教育９年間で学びを支える効果的な指導」を、これまでの幼・小・中独自の教育方法や指導方法で、教育活動を行うのではなく、一貫性を持った教育方針や指導方法で連携して、子どもたちの育成にあたることであるとしてきました。

この「一貫性を持った教育方針や指導方法」を具体化するものが幼小中一貫カリキュラムで、教育委員会から平成２６年４月に学校に対して示した「吹田市小中一貫教育実施プランⅡ」の重点項目の中の「① 授業改善に向けた小中合同研究」を具現化するもののひとつとして位置づけられています。

このように施設一体型ではなく施設分離型での吹田型幼小中一貫教育をめざす中で、幼小中一貫教育の本質となるのは「めざす子ども像の共有」であり「共有された子ども像を実現するための方策としての一貫カリキュラム」です。これは、各１８中学校ブロックに１８通りのものが作成されることになりますが、一部カリキュラムを作成している中学校ブロックもあるものの、大半のブロックではこれからの課題となっており、早急な幼小中一貫カリキュラムの策定が懸案となっています。

２．研究目的と概要

（１）研究の目的

このような状況を受け、各中学校ブロックにおいて幼小中一貫カリキュラムを策定していくうえで参考にできるものを提示する必要があるということで、実際の運用が可能であるくらい具体的なもので、なおかつ中学校ブロックの特色を生かした創意・工夫を盛り込める余地のある形での幼小中一貫カリキュラムを学校現場の教職員と教育委員会の主幹・指導主事との協働によって作成することになりました。

幼小中一貫カリキュラムの作成作業については新たなシステムを立ち上げて組織を増やすのではなく、既存のシステムの中での運用を図るという意味合いから、現場教職員と共同研究する仕組みである「教育センター 研究グループ」の仕組みを活用することになり、3つ目の研究グループとして平成２６年７月８日に立ち上げ総会を開催し、現在カリキュラムの作成作業に入っています。

研究にあたって、研究グループ活動は教育センター事業であるものの、幼小中一貫教育の推進は教育委員会全体で取組むべきことであることから、教育委員会各室課から主幹・指導主事が参加し、学校現場からは各教科・領域において高い見識やスキルを持ち、指導的な役割を担っている教職員に参加いただいています。

参考

吹田市小中一貫教育実施プランⅡ 「総合的人間力」を育成するために

千里みらい夢学園（小中一貫教育校）

リーディングスクールとして取組の充実を図ります

【５つの柱】

①学力向上（研究授業の活性化、指導法の共有等による指導力の向上、放課後学習の充実）

②英語教育（教育課程特例校指定による英語教育の成果の発表、ALT の効果的な活用）

③６年生の中学校登校（小中の教員による工夫ある授業、小中学生合同授業の実施）

④高校連携（キャリア教育の一環とした高校との連携）

⑤地域連携（アカデミックスペースの充実、漢字等検定会場、夏季・冬季講座等）

保護者・地域への積極的な発信（HP・学園通信・学校便り等の効果的な活用）

17 中学校ブロックへの積極的な発信（連続性のあるカリキュラムモデル、公開授業）

１７中学校ブロック

小中一貫教育を柱に中学校ブロックの特色を活かした取組を充実します

より緊密な小中連携の基本となる内容（目標の再設定・具体的取組の設定）

☆ 重点項目の実施（各中学校ブロックに応じた具体的取組の設定、年間計画の設定）

リーディングスクールの取組に学ぶ（各中学校ブロックに応じた活用）

☆重点項目

小中一貫教育を通して「確かな学力」の充実・中学校への円滑な接続を図ります

①授業改善に向けた小中合同研究（９年間のカリキュラム編成、小学校での研究授業・研究協議に中学校教員の参加及び交流、中学校の教科を越えた研究授業の積極的な実施、教員同士の授業相互評価を行える校内システムの構築等）

②コミュニケーション力の育成（グローバル社会の中で活きるコミュニケーション力を視野に入れ、各中学校ブロックに応じた取組の柱の設定、実施方法の検討、実施）

③中学校での６年生の教育活動の推進（中学校教員による授業体験等の実施、定期考査中・宿泊学習中等の活用、複数回もしくは定期的な実施等）

④保護者・地域への積極的な発信（参観・懇談・学校公開・学校便り・HP の効果的な活用等）

従前の小中連携の取組（チェックリスト参照）に加え、H26 年度以降指導観の共有化を更に図り、各中学校ブロックで共通確認した☆重点項目（①~④）に取り組みます

生徒指導

子どもにとって学校が安心できる場となるよう子ども理解を深めます

- □ 小中学校が連携した組織づくり
- □ 日常的な情報交流による課題の共有化
- □ 校則・ルールの把握、共有化
- □ 協働体制による問題事象等への対応
- □ いじめの未然防止・早期解決

学力向上 指導力向上

（特別支援教育を含む）

授業相互評価、校内・ブロック研究授業を活用し、「わかる授業」をめざします

- □ 指導内容の共有化
- □ 授業のユニバーサルデザイン化
- ☆□ 授業改善に向けた小中合同研究
- □ 就学前教育からの学びの連続性
- ☆□ コミュニケーション力の育成
- ☆□ 指導内容の重点化を図った９年間を見通した連続性のあるカリキュラム編成

交流活動

保護者・地域への発信

取組の見える化を図ります

- □ 就学前の子ども・児童・生徒が交流できる機会の充実
- ☆□ 中学校での６年生の教育活動の推進
- ☆□ 保護者や地域にも見える学校づくり
- □ 地域人材の積極的な活用

指導観の共有化

子どもたちの「学び」と「育ち」を支え、めざす子ども像の実現をめざします

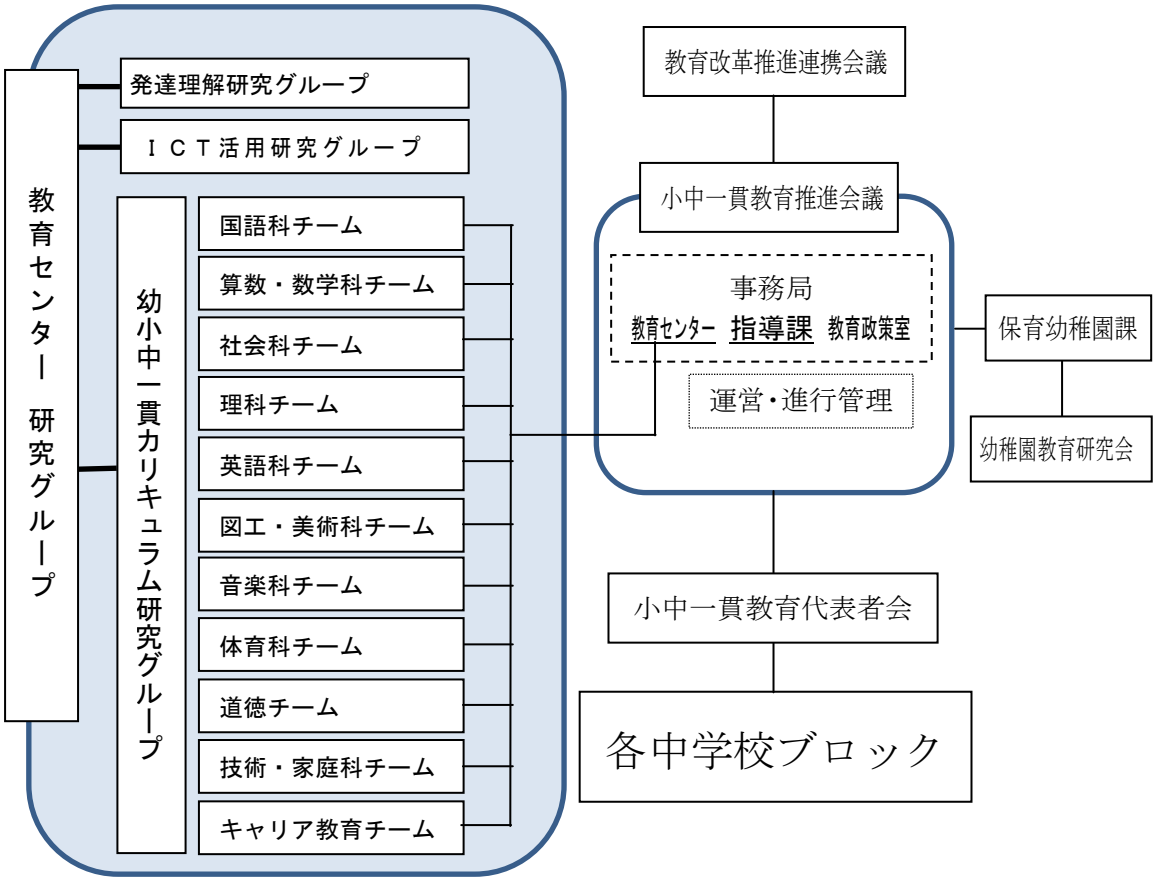
（２）研究概要

ア．構成について

幼小中一貫教育カリキュラムグループの中に１１の教科のグループを作り、教科領域名を冠した「教科チーム」としました。

英語科チーム　音楽科チーム　食育チーム（家庭科）　キャリア教育チーム　国語科チーム
算数・数学科チーム　社会科チーム　図工・美術科チーム　体育科チーム　道徳教育チーム
理科チーム

※ 技術科領域は「情報活用スキル」ということでＩＣＴ機器活用研究グループが兼ねる予定。



幼小中一貫教育カリキュラムグループの統括は教育センター参事がおこない、小中一貫教育推進会議と連携をとりながら進めていきます。（下図参照）

イ．活動期間

平成２６年４月から平成２８年３月までの二年間とします。

※ 研究員としては１年毎の委嘱

ウ．研究員について

チーム名	研究員名	所属校	担当
英語科チーム	荒木 大輔	千里みらい夢学園 桃山台小学校	小早川（指導課） 金築（指導課） 浦田（教職員課）
	出野 友美	千里新田小学校	
	神崎 由紀	南千里中学校	
	藤田 幸	千里みらい夢学園 竹見台中学校	
音楽科チーム	今村 美加	片山小学校	木谷（センター）
	中島 美穂	千里新田小学校	
	大澤 美千代	第二中学校	
	栗原 綾子	第五中学校	
	榊 貴恵	高野台中学校	
食育 (家庭科チーム)	上野 弘美	山田第三小学校	河合（保健給食室）
	酒井 美智子	佐井寺小学校	
	今木 理恵子	豊津西中学校	
	薗牟田 優里	第二中学校	
	神原 憲子	山田東中学校	
キャリア教育チーム	坂下 剛	吹田第三小学校	角田（指導課）
	坂本 ゆか	佐竹台小学校	
	大賀 晃代	第五中学校	
国語科チーム	浜崎 由貴	北山田小学校	大坪（センター） 金崎（指導課）
	星野 克行	青山台小学校	
	佐藤 忍	佐井寺中学校	
	平岡 弘子	千里みらい夢学園 竹見台中学校	
算数・数学科チーム	粟野 志保	山田第二小学校	近藤（指導課）
	石井 敬介	千里第一小学校	
	小林 重信	豊津西中学校	
	濱田 淳司	第三中学校	
社会科チーム	荒木 大輔	千里みらい夢学園 千里たけみ小学校	速水（センター） 森脇（指導課） 西（教職員課）
	髙田 肇	山田第三小学校	
	萩森 須賀	片山中学校	
	彦根 幸恵	第二中学校	
図工・美術科チーム	岡田 敦	千里みらい夢学園 千里たけみ小学校	内田（教育政策室） 真部（教職員課）
	齊藤 禎	山田第一小学校	
	井口 知香	高野台中学校	
	平岡 寛子	第二中学校	
体育科チーム	高橋 誠	千里みらい夢学園 桃山台小学校	山口（指導課） 村上（青少年ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞｾﾝﾀｰ）
	平田 葵	豊津第二小学校	
	田渕 真司	山田中学校	
	船橋 壮	第二中学校	
道徳教育チーム	井上 治恵	山田第三小学校	江下（指導課） 佐々木（青少年室）
	生地 真由美	佐井寺小学校	
	明原 由美子	南千里中学校	
	野本 玲子	青山台中学校	
理科チーム	鬼頭 孝雄	豊津第一小学校	佐藤（指導課） 須藤（センター）
	小栗栖 隆	千里丘中学校	
	園田 章	佐井寺中学校	

エ．研究の進め方について

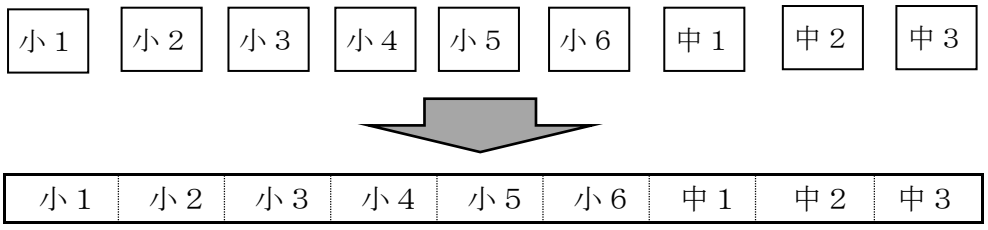
（ア）カリキュラム作成のイメージについて

作成するカリキュラムは例示であることから「（仮想）さつき中学校ブロック（さつき第一小学校、さつき第二小学校、さつき中学校）のものを作成するといったイメージで臨みます。

（イ）さつき中学校ブロックの**「めざす子ども像」**はあらかじめ設定してあるものを全教科共通ものとします。

（ウ）作成手順

① まず、学習指導要領、吹田で採択している教科書の単元配列を参考に、小１～中３までの学習内容を結合し、結合したら一貫性を意識した学習内容を検討します。



※ 現在、小中とも教科書採択の時期を迎えていますが、ｈ26 使用の教科書で作業を進め、新しい教科書の採択後、単元の入替えをおこないます。

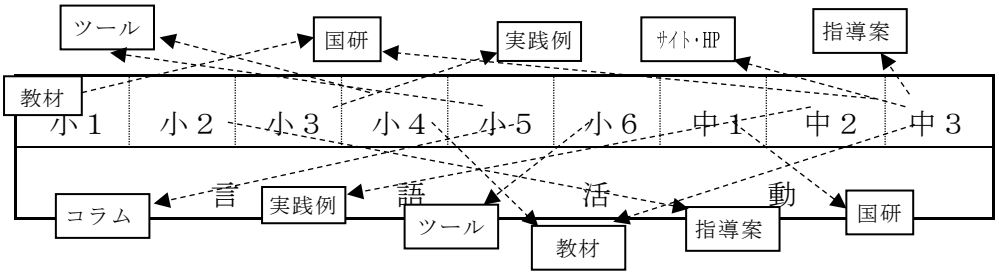
② さつき中学校ブロックでは、**言語活動に取組むことに主眼をおいているという想定**のもと、一貫カリキュラムの中学校ブロック独自の味付けとして「言語活動」をあてます。この部分は実際運用するにあたっては各ブロックの特色を出す部分ですので、実際には「ＩＣＴ活用」や「学び合い」等、ブロックの重点課題が入ります。

小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３
言	語		活		動			

③ 評価規準を検討し記入します。

小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３
言	語		活		動			
評	価		規		準			

④　研究の過程で「必要である」「有用である」と思われる情報全てをカリキュラム内に記載するのは不可能なため、関連性からすぐに引き出せるようにリンクを貼ります。



※　画像情報や指導案（文書ファイル）等の資料は「資料〔算数・数学〕」のように名前をつけたフォルダーをつくり、そこに保存してください。そして、一貫カリキュラムの文中のリンクさせたい文から当該の資料ファイルにリンクを貼ります。

⑤ 保育幼稚園課からの助言を受け、「小１」以前の部分に加えられる部分があれば加えます。

年中	年長	小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３
		言		語		活		動		
		評		価		規		準		

⑥ １年目に上記の「オ」までを行い、２年目に「カ」以降を行うことを目標とします。

オ.　幼小中一貫カリキュラムの様式について

（ア）領域について　領域の分け方はチーム内で話し合って分けます。

（イ）理科、社会については１・２年生の生活科の理科的領域、社会的領域を含められるようならば中に含めていきます。

（ウ）用紙はＡ３横置きとします。

（エ）段階は次のとおりに統一します。

Ⅰ期（１～５年）基礎基本の徹底
Ⅱ期（６・７年）連続性を意識した指導
Ⅲ期（８・９年）進路を見すえた指導

（オ）さつき中学校ブロックの「めざす子どもの像」を

○未来を見つめ、自ら学び共に生きる子
○人や社会とよりよくかかわることができる子
○自分の思いを伝えられる子（コミュニケーション力の育成）

として全教科で統一します。

（カ）各段階における「めざす子どもの姿」は上記の「中学校ブロックのめざす子ども像」を具体的にしたものを各教科で設定します。（全教科で統一はしません。）

（キ）作業中のデータは「校務なび」→「ライブラリ」→「幼小中一貫カリキュラム」→「各教科」に保存し、随時、読み出して作業をするものとします。

（ク）研究員に伝えしたい内容や各グループの進捗の情報等は「一貫カリキュラムつうしん」で随時、お知らせします。

（３）研究の進捗状況

平成２７年３月現在の各教科チームの研究報告を以下に示します。

英語科チーム	今年度英語グループでは、５回の部会を開催しました。最初、さつき中学校ブロックのめざす子ども像をもとに、それぞれの学年のめざす子ども像を検討しました。その後、５・６年の小学校外国語活動と中学校英語科の接続部分を意識し、学習領域を検討しました。しかし、小学校では場面シラバス中心に、中学校では文法シラバス中心に構成されているため、カリキュラム作成には苦慮しました。今年度中に、学習領域及び言語活動のカリキュラムの形を整え、次年度は評価基準について検討していく予定です。多くの先生方に活用されるカリキュラムを作成したいと、研究員一同考えています。
音楽チーム	音楽グループでは、学習内容を「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」「楽典」の５領域に分けてカリキュラムを作成しています。「目指す子ども像」を共有しながら小・中学校の現状について情報交流を深め、１２月までに「歌唱」「器楽」「鑑賞」の３領域について大筋の流れを作りました。１月からは「音楽づくり」のカリキュラム作成に取り組んでいます。学習指導要領の内容に添いながら、学年を追って児童生徒につけたい力を確認し、小学校で学習・体験したことを中学校でさらに深めることができるようなカリキュラム作成を目指して試行錯誤しています。また、研究グループ内だけのものにならないよう、作成の経過を折に触れて音楽部会等で報告し、多くの先生方のご意見をいただきながら使いやすいものを作っていきたいと考えています。
食育チーム	食育チームは、中学校家庭科教諭３名、小学校栄養教諭２名で構成し、カリキュラムの作成をしています。最終目標を「一食作れる吹田っ子」とし、取り掛かりとして、まず、それぞれが各校で実施していることを出し合い、小中で内容を共有したうえで、教科として学習する「食に関する内容」を加え作成しています。カリキュラムの図は、ほぼ完成しましたので、今後は、その内容にあった指導案を盛り込んでいきたいと考えています。各学校で、内容が、学年が上がるにつれ、どのように発展させ、つながりを持たせるかを考えながら、各学校で活用できるものとなるよう、カリキュラムを仕上げていきたいと考えています。

キャリア教育チーム	キャリア教育グループは、５回の部会を開催しました。第１回は顔合わせをした後に、キャリア教育についての学習をしました。第２回では、各教科・領域の学習内容を国が示す「基礎的・汎用的能力」におけるキャリア教育で育みたい４つの力にどう関連付けるかの視点で、カリキュラム作成に向けての指針を決めました。第３回では、具体の学習内容を小学校・中学校別に持ち寄り、様式の雛形に落とし込み比較検討する中で、つながりについての意見交換を行いました。第４回では、学校現場で活用しやすいものにするために、様式の確認をするとともに、言語活動の記入についての検討を行いました。第５回は、学習内容で学年間のつながりを意識したものを作成しました。次年度は、言語活動や評価について検討し、まとめていく予定です。
国語科チーム	国語科グループでは、「全国学力・学習状況調査」において吹田市の課題となっている「書くこと」領域に焦点化し、カリキュラム作成を進めています。児童・生徒が目的意識と相手意識をもって活動に取り組むことの必要性を再確認し、「発信（自分の思いや考えを表現）」と「受信（相手の思いや文章の内容を受けとめまとめる）」という相互方向のやりとりができる子どもを育てるための「つけたい力」を挙げ、発達段階に対応するよう整理しながら「めざす子どもの姿」を策定しました。教科書単元との関連も考え、子どもたちの学びの手立てとなる具体的な言語活動の取組について検討しています。「読むこと」・「話すこと・聞くこと」領域等にも繋げていく予定です。
算数・数学科チーム	算数・数学科グループは、各領域において、小中９年間で学ぶ単元にどのようなつながりがあるのかを一目で確認できるものを目指してカリキュラムを作成中です。現在、カリキュラムの中にその単元で学ぶ内容や用語等を含めたり、リンク先にチームのメンバーの経験等を含めた、小中つながりポイントを含める方向で情報の精査を行っています。試作版の検討を重ね、新たな単元の学習を始める時や授業を始める前などに手にとって学習のつながりが確認できるものを目指していきます。
社会科チーム	社会科では、カリキュラムの柱を「思考力・判断力・表現力」に焦点化して進めることにしました。そのために、小学校から中学校にかけての社会科の思考力とはどのようなものか、議論しました。①その中で、学年が上がるにしたがって、②様々な思考の方法を獲得し、判断につなげていくことがわかってきました。また、副読本や教科書の単元をもとに、小学校から中学校へのつながりを表に書き込んでいます。今後は、明らかになった社会科の思考力の発達段階をもとに、どの単元でどのような問いを設定して思考力の育成につなげていくのか、カリキュラム表に盛り込んでいく予定です。

図工・美術科チーム	図工・美術グループは、３回の部会を開催しました。第１回は、インクルーシブ教育の観点を取り入れたカリキュラムにすること、図工・美術科の特性を活かした視覚的なカリキュラムにすること等を確認しました。第２回は、小・中それぞれの教科書や学習指導要領を比較し、特色、違い、共通点、連続性を分析しました。また、本市の小学校で力を入れている造形遊びの位置づけや取組の歴史等について意見交換し、カリキュラムに反映させる方策を考えました。第３回は、カリキュラム試案を基に、図工・美術科で育てていきたい力を改めて確認しました。今後は、言語活動や領域間のつながりをどのように具体化していくかについて検討していく予定です。
体育科チーム	体育科グループはグループをスタートしてから４回の部会を開きました。第１回は小・中のカリキュラムを持ち寄り、教材の扱いや授業の進め方、困っていることについて交流し､まずは器械運動に絞って話を進めることを決めました。 第２回は器械運動においてカリキュラムを持ち寄って小・中の段差や動きの系統性について注目し、言語活動や評価規準についても話し合いました。次回は陸上運動のカリキュラムを持ち寄ることになりました。 第３回は器械運動において整え、記号を使うなど見やすい工夫を取り入れました。陸上運動では小・中の取組を持ち寄って比較検討しました。第４回は器械運動、陸上運動においてみんなの意見を一つの形にしました。
道徳教育チーム	第１回は、小中一貫カリキュラムのイメージの共有と、今後の方向性を確認し、まず各内容項目で活用できる教材のピックアップを行うことにしました。第２回は、各内容項目で活用できる教材の確認と、小・中での授業の実際について確認し合い、中学校ブロックの目指す子ども像に基づいた道徳における目指す子ども像を検討しました。第３回、第４回は、目指す子ども像に基づき、ブロックでの重点の内容項目を３項目決定しました。また、重点３項目の教材について検討し、その活用方法や指導法について検討を行ました。第５回は、一貫カリキュラム一覧に表現する活用方法や指導法及び小中のつなぎの部分ついて検討を行う予定です。
理科チーム	理科グループは、まず、理科における児童生徒の課題に対し系統性を持った指導を大切にすべきこととは何かについて議論をしました。その中で、児童生徒に考察の仕方（考察という言葉の意味理解と具体的な考察のあり方）を学ばせる、身につけさせることが課題であり、考察する力を身につけさせるための指導の系統性、一貫性を持たせることが大切であることを共通理解しました。学習指導要領では、小学校においては学年ごとに目標となる規準が異なりますが、中学校では全学年で目標となる規準が同じです。特に小６から中１の目標の差（段差）が大きく、この中１における目標のあり方について検討する必要があります。今後、観察実験の「考察」における学年ごとの明確かつ無理のない（緩やかな）段差（ねらい・めあて）について検討を行う予定です。